

編 集 後 記

梅雨も終り、本格的な夏に入りました。会員のみなさまお元気で活躍のことと思います。日本生理学会誌6号をお届け致します。

本号ではTRENDSに菅先生から日本生理学会シンポジウム「心臓生理学の将来を考える」座長、並に特別講演「統合生物学としての生理学を考える」後の円卓討論会への参加を終えての感想を頂きました。先生のこれまでの経験と生理学に対するお考えをまじえてまとめてくださいました。

Reductionistic analysisによる生理学の進歩は目覚ましいものがありますが、それを統合するintegrative analysisによる結果はやや勢いが欠ける印象があります。方法論の性質上しかたがない点もあると思いますが、最近のコンピュータネットワークの進歩は目覚ましいものがあります。これを利用するのは如何でしょうか。

参考になる例としてPC-U_nixの一つであるLinuxの開発があげられると思います。当時大学生のLinus氏がネットワークで現在Linuxと呼ば

れるOSのプロトタイプを公開したところ、世界中のプログラマーが無償で協力し素晴らしい無料のOSを開発しました。

このような例に習って、世界中の研究者がネットワーク上で協力しての、それぞれの専門とする部分を担当して（たとえば、上丘、脳幹、小脳、大脳基底核など）、その全体像が分かるようなdocumentを作成し、常にupdateして、そのサイトに行けば最新の情報が手に入れられるようにするのは如何でしょうか。Priority、著作権などの問題はありますが、奉仕のみで機能するようなものがあるのも良いのではないのでしょうか。このようなものが出来上がれば生命への統合としての生理学が更に進歩するのではないのでしょうか。

PROFILEには中西 博先生より頂きました。今後のご発展を祈念いたします。

(佐々木成人)

編 集 委 員

*編集執行委員

*金子 章道 (編集幹事) (感覚)	青木 藩 (呼吸)
小野田法彦 (感覚)	河南 洋 (自律神経, 内分泌)
*工藤 典雄 (運動, 発生・成長・老化)	窪田 隆裕 (腎・体液)
黒島 晟汎 (環境)	*小西 真人 (筋)
佐久間康夫 (生殖)	*佐々木成人 (運動)
高田 明和 (血液)	菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温)
*高松 研 (神経化学)	土居 勝彦 (心臓・循環)
*入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)	成瀬 達 (消化・吸収)
辻岡 克彦 (循環)	*川上 順子 (感覚)
村上 政隆 (膜輸送)	福田 淳 (感覚, 高次中枢)
小山 なつ (HP担当)	吉岡 利忠 (体力)

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603 (勤務時間10：30～18：30)
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj/